

<p>国鉄改革完遂！          当たり前の労働運動          を前進させよう！</p> <p>J R 東海労に          結集しよう！</p>	<p>J R          東海労</p>	<p>静岡</p>	<p>J R 東海労働組合静岡地方本部          静岡市葵区黒金町 68          NTT 054-284-3608          FAX 054-283-6365          発行責任者 山本繁明          2014年8月9日 No. 3</p>
---	-----------------------------	-----------	---

**これでいいのか？**

**原発政策！！**

「天災は忘れたころにやって来る」これは、物理学者で随筆家の寺田寅彦の名言です。彼はこの名言の元になった「天災と国防」で、地震や津波などが日本で頻繁に起こるのに人々はまたいつか天災が起きることを忘れると指摘し、「少なくとも一国の偽政の枢機に参与する人々だけは、この健忘症に対する診療を常々怠らないように」と書いています。首相ら政府首脳は、天災を教訓として将来に向けた政策を立てるべきだと説いたのでした。

日本は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故という未曾有の災禍を経験しましたが、この事故を忘れたかのようにトルコやアラブ首長国連邦 (UAE) への原発輸出を可能にする、原子力協定の締結を国会が承認しました。さらに九州電力川内原発 1・2号機について、原子力規制委員会は事実上の審査合格を出し今秋以降に再稼働する可能性が出ています。

一方、原発事故を忘れず政策を進めているのがオーストラリアです。1978年に国民投票で原発の稼働を拒否したオーストラリアは、86年のチェルノブイリ原発事故を契機に反核の機運がさらに高まり、99年には憲法にも原発建設禁止を明記しました。

福島第一原発事故の後には、風力・太陽光やバイオマスによる発電を増やすための補助金を大幅に増やしました。原発由来の電力の輸入を全て排除する事を目指しているためです

安倍晋三政権は原発再稼働を進める方針ですが、9千キロ以上離れた欧州の国が日本の原発事故を教訓に、自然エネルギー普及に努めていることを『忘れやすい』日本人の一人として、重く受け止めなければならないと思います。

**原発は、百害あって一利なし！！**

**日本を破壊させないために、**

**全ての原発を廃炉にしよう！！**